

世紀転換期の米国における襟の表象

ー デタッチャブル・カラーの流行を手がかりとして ー

渡辺 友美（早稲田大学大学院）

発表要旨：

本発表では、19 世紀末から 20 世紀初頭、いわゆる世紀転換期の米国を中心に流行した、シャツに取り付ける襟「デタッチャブル・カラー (detachable collar)」の表象がいかに大衆メディアを通して形成され流布したかを分析する。デタッチャブル・カラー（以下カラーと記載）は、汚れやすい襟だけを取り外すことで、清潔さを保つことができる画期的な紳士服のアイテムとして受容された。洗濯が今ほど手軽に行うことができなかった当時、衣服の白さは身なりに手間と金銭を費やすことのできる証でもあった。このカラーは、有色人種や移民が「ブルーカラー」の肉体労働を担うのに対し、「ホワイต์カラー」の職業に就く WASP(プロテスタントのアングロサクソン系白人)のステータスを誇示するアイテムとしても機能したことが先行研究にて指摘されている。

一方でこのカラーは女性のファッションにも展開されていたものの、その表象に関しては未だ検討の余地が残されている。紳士服に用いられていたカラーが女性の衣服にも適用された事例を通し、当時注目された「男性らしさ」の記号性を帯びたファッションの意義を再考したい。また既製服産業の発展の最中であった世紀転換期、「シャツウエスト (shirtwaist)」と呼ばれる女性向けのブラウスが大量生産品として全米に流通していた点も注目に値する。これはカラーやネクタイ等の男性的なアイテムと併せて着用されるケースも多く、先行研究では、旧来のジェンダーを打破しようとする「新しい女」のイメージとの親和性が語られている。商業美術家チャールズ・ダナ・ギブソンの描いた「ギブソン・ガール」と呼ばれる女性の装いはその代表的な例といえる。この蓄積を前提とした上で、これまで十分に検討されていない、大衆メディアが女性にカラーを消費させるために、「新しい女」のイメージをどのように利用し、カラーを着用した女性像がいかなるかたちで展開されたのかを考察する。

主要参考文献

- Carole Turbin, "Collars and Consumers: Changing Images of American Manliness and Business" *Enterprise & Society*, Vol. 1, No. 3, Sep. 2000, pp. 507-535.
- Carole Turbin, "Fashioning the American Man: The Arrow Collar Man 1907-1931" *Gender & History*, Vol.14 No.3, Nov. 2002, pp. 470-491.
- Michael J. Murphy, "Orthopedic Manhood: Detachable Shirt Collars and the Reconstruction of the White Male Body in America, ca. 1880-1910," *Dress: The Journal of the Costume Society of America*, Volume 32, Issue 1, 2005, pp. 75-95.
- Martha H. Patterson, *Beyond the Gibson Girl: Reimagining the American New Woman, 1895-1915*, University of Illinois Press, 2005.